



尾間木中だより

学校教育目標
豊かな心を持ち、
たくましく生きる生徒

平成 30年 1月 9日 第9号

〒336-0926
電 話
F A X

さいたま市緑区東浦和4-29-1
048-874-9733
048-810-1127



「あなたは友人に何をしましたか」

校長 堀 田 明 良

新年あけましておめでとうございます。生徒、保護者、地域の皆様におかれましては良い年をお迎えのことと
思います。昨年は本校の教育活動に対しまして様々な形で大変お世話になりました。今年も「みんなで伸びる 尾
間木中」を合い言葉に、教育活動を進めてまいりたいと考えておりますので、昨年にもましてご理解ご協力をど
うぞよろしくお願いいたします。

年末年始は人と会う機会の多い時期だったと思います。普段離れたところにいる家族が帰省して来たり、年始
のあいさつに行ったり来たりなど、生徒の皆さんも普段会えない方との再会を喜んだのではないかと思います。
私事ですが、この年末年始は学生時代の友人と会う機会が多かった時期でした。高校、大学時代の友人とは同じ
趣味を通じて日頃交流があったり、定期的に同窓会を行ったりしているので、今年もお互いの近況を報告し合い、
再会を約束して別れました。新鮮だったのが数十年ぶりに再会した小・中学校時代の有志で行った同窓会でした。
懐かしさと再会の嬉しさのせいでしょうか、とても温かい雰囲気の中で時を忘れ、笑い合い、語り合うことがで
きました。参加した一人が「この会は気を遣わなくてゆっくりできる所がいいよね。」と何気なく言っていました。
中学卒業後の進路も住んでいる所も就いている仕事も色々ですが、お互い子どもの頃から気心が知れている
ので気楽に楽しめた会であり、同級生から元気ももらえた会でした。

2学期に行った3年生の面接練習で数名の生徒に「あなたの親友はどのような人ですか。」というような質問
をしました。すると男女問わず「相談に乗ってくれる。」「話を聞いてくれる。」「趣味が一緒である。」という答え
が返ってきました。困ったときや悩んだとき、力になってくれて、重くなった心を軽くしてくれる友人が信頼さ
れるのでしょうか。また、共通の趣味を通じてお互い楽しんだり、高め合ったりすることにより、成長している実
感が得られるのでしょうか。もちろん面接練習という限られた時間でしたので「あなたはその友だちに何をしまし
たか。」という質問はできませんでしたが、答えた生徒も友人の悩みを聞いたり、話し相手になったりしているこ
とでしょう。独りよがりな気持ちだけでは、親友・良友は得られません。むしろお互いに苦勞をともにするとい
う経験が、確かな友情を築く良いきっかけになることがあります。苦勞を共にしているときは、仲間の苦勞もよ
く実感できるものです。そんなことから、自然と相手を思いやる気持ちも生れて友情が育っていくのでしょうか。

本校の校章にデザインされているハナミズキも友情に関わり合いのある樹木です。ハナミズキはアメリカ大陸
原産で日本に生育していなかった樹木です。日本で育てられるようになったきっかけは、1912（明治45）
年に当時の東京市長であった尾崎行雄氏が、アメリカ合衆国首都ワシントン D.C.へサクラ（ソメイヨシノ）を贈
り、1915（大正4）年にその返礼として贈られたことによるそうです。日米友好のしるしがサクラであり、
ハナミズキなのです。今年もハナミズキが見守る尾間木中学校で、多くの良い友情が育まれることを願っていま
す。



「真の友愛においては、私は友を自分の方に引き寄せるよりも、むしろ自分を友に与える。」

（モンテーニュ フランスの哲学者）

